

平成22年度「ごみ減量月間」取り組み結果

広くごみ減量の意識啓発・行動促進を図るため、10月を「ごみ減量月間」として、区民・事業者・区が協働した取り組みを展開しました。

1. 街頭キャンペーンの実施

身近にごみの発生抑制に取り組むことができるマイバッグ持参キャンペーンを、14会場（1箇所自主配布）にて行いました。会場ではごみの減量に関するアンケートの実施と協力いただいた方にマイバッグ（買い物袋）の配布を行い、ごみの減量を呼びかけました。

(1) 平成22年度アンケート協力者数 2,971名

(2) 実施会場

地区	日時	会場
四つ木	9月26日(日) 午後1時30分から	まいろ一ど四つ木商店街
亀有	10月2日(土) 午後4時から	イトーヨーカ堂亀有駅前店
金町	10月2日(土) 午後5時30分から	末広商店会
高砂	10月3日(日) 正午から	京成高砂駅南口出口前 (高砂商店会・高砂エビス通り商店会・高砂南町商友会)
金町	10月3日(日) 午後4時から	金町とうきゅう
堀切	10月8日(金) 午後4時から	堀切菖蒲園駅前(堀切商店街堀切21)
新小岩	10月9日(土) 午後3時から	みのり商店会
鎌倉	10月23日(土) 午前11時から	千代田通商店会
亀有	10月23日(土) 午後2時から	かめありリリオパーク (亀有地区町会自治会連合会・亀有地区商店街協議会)
お花茶屋	10月23日(土) 午後3時から	お花茶屋商店街
新小岩	10月24日(日) 午後2時から	西友新小岩店
立石	10月29日(金) 午後3時から	立石仲見世商店街
金町	10月31日(日)	金町しょうぶ通り商店会 (※30日雨天中止のため自主配布)
清掃工場	11月7日(日) 午前10時から	ごみ減量・清掃フェア (葛飾清掃工場)

(3) ごみ減量月間協力団体・事業者

実施にあたり、次のとおり推進協議会参加団体・事業者から協力をいただきました。

団体	内容
葛飾区自治町会連合会	キャンペーンの従事
葛飾清掃協力会	キャンペーンの従事
葛飾東清掃協力会	キャンペーンの従事
葛飾区消費者団体連合会	キャンペーンの従事
葛飾区商店街連合会	街頭キャンペーン会場の提供(10商店街)

団体	内容
	チラシによるPR・街頭放送・ポスター掲示
イトーヨーカドー亀有駅前店	街頭キャンペーン会場の提供 ポスター掲示・店内放送
金町とうきゅう	
西友新小岩店	
森永乳業株式会社東京工場	物品の提供(パック飲料)
かつしかエフエム	PR放送

さらに、上記以外の団体の皆さんからも、ポスターの掲示や店頭放送等のご協力をいただきました。また各会場において、日本大学学生の皆さんにも従事のご協力をいただきました。

(4) ごみ減量月間における区の実績結果

- ・「広報かつしか」9月15日号やホームページを通じたPR
- ・PRポスターの作成と掲示
- ・キャンペーン物品の用意、職員の配置、その他各種準備・調整

(5) 平成22年度ごみ減量月間（街頭キャンペーン）アンケート集計結果

ごみ減量月間における街頭キャンペーンでは、区民の意識を把握し今後の協議会活動の参考とするため、毎年街頭キャンペーン参加者に対してアンケートを行っています。

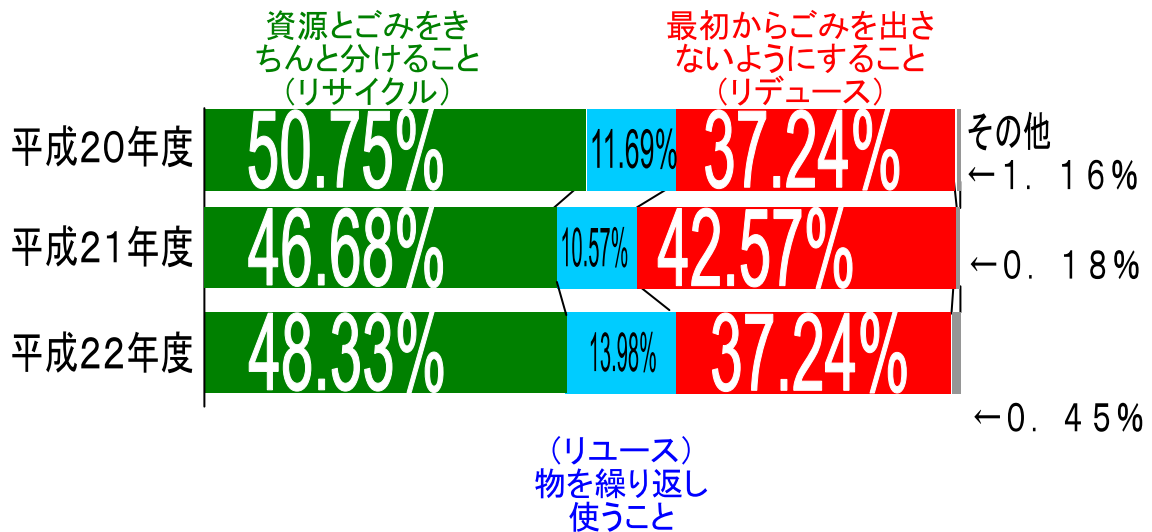
2. 平成22年度ごみ減量月間（街頭キャンペーン） アンケート集計結果

平成22年度においては、区内14会場にて街頭キャンペーンとしてアンケートの実施とマイバックの配布を行い、ごみの減量を呼びかけた。

「ごみの発生抑制」意識の浸透状況について（有効回答者数 2,772）

問1 ごみを減らすために一番大切なことはどれだと思いますか。
いずれか1つに○をつけてください。

- 1. 資源とごみをきちんと分けること (1,172件) 48.33%
 - 2. 物を繰り返し使うこと (339件) 13.98%
 - 3. 最初からごみを出さないようにすること (903件) 37.24%
 - 4. その他 (11件) 0.45%
- （その他の意見）無駄を出さないように使い切る、余計な置物はしない、企業もエコな商品を増やす、水を良く切る 等

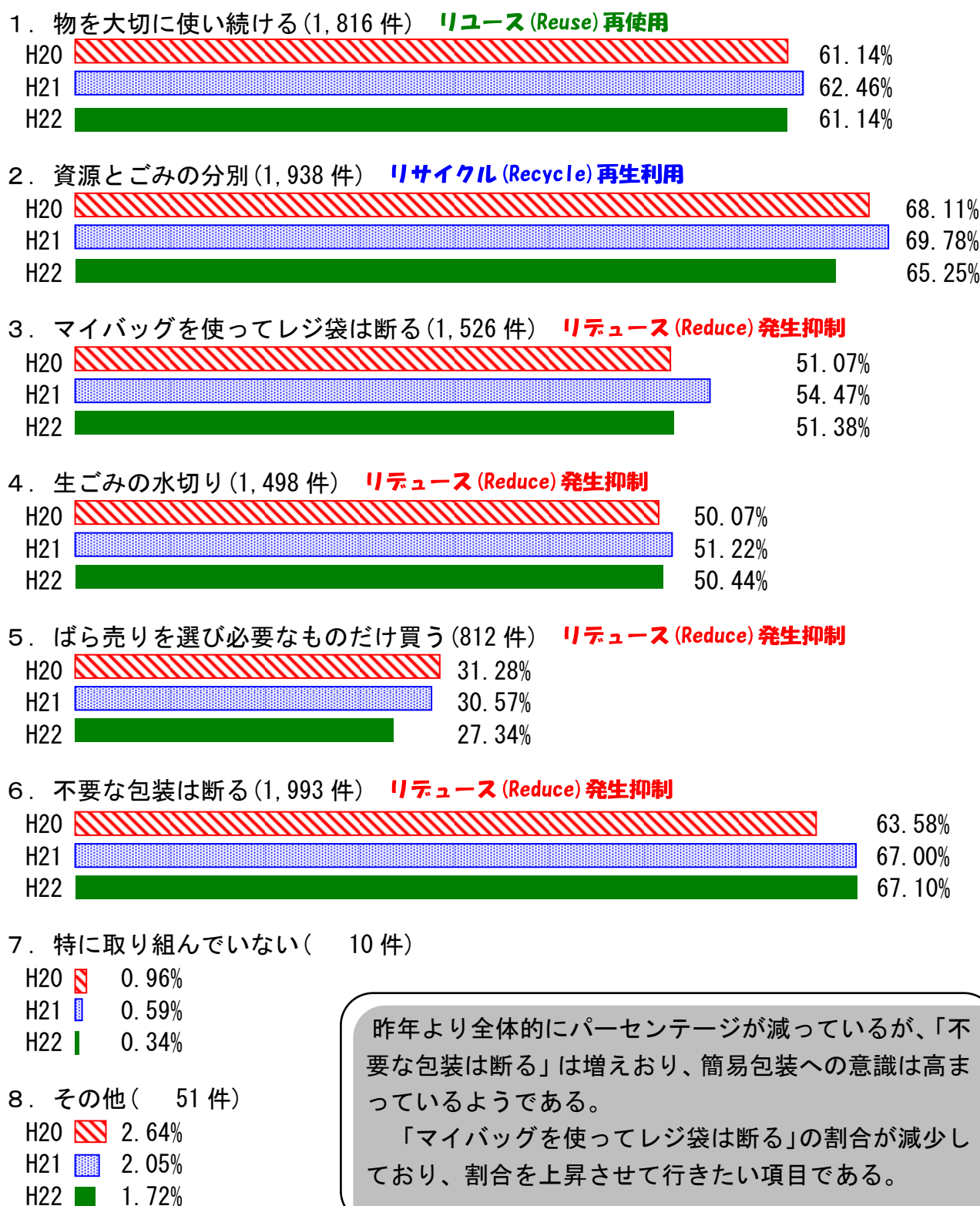


平成22年度は、ごみの減量に一番大切な発生抑制である「最初からごみを出さないようにすること（発生抑制）」の割合が昨年より減ってしまい、「物を繰り返し使うこと（リユース）」がやや増えている。依然として「資源とごみをきちんと分けること（リサイクル）」が一番多い結果となっている。

発生抑制の意識を高めるために、啓発に力を入れていく必要がある。

ごみ減量の取組状況について（有効回答者数 2,970）

問2 あなたは、ごみを減らすために日頃から何か取り組んでいますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。



その他の意見（マイ箸の利用、堆肥にする、果物・野菜は皮をむかない、ラップを使わないでタッパーを使う、レジ袋を持って歩く 等）

今後の取り組みについて（有効回答者数 2,835）

問3 ごみの減量やリサイクルを推進していくためには、どのような取り組みに重点を置いていく必要があると思いますか。
あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. イベントやキャンペーンの実施(1,439件)



2. ホームページやFM放送などを使ったPR活動(451件)



3. 事業者による自主的な活動の促進(1,533件)



4. 地域における自主的な活動の促進(1,567件)



5. その他(68件)



その他の意見 幼稚園や小学校で子供たちに伝える、各自の認識を高めていく、
まだ使えるものは利用してもらえる所に寄付する、
ごみにならないような製品を造る、生ごみを肥料にする 布服のリサイクル
などもっと細かい分別をする、
法律（強制力を伴う）等の規制が必要、ごみの有料回収 等

「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進の割合は昨年よりも減っているものの、他項目よりも高い割合を維持してる。イベントやキャンペーンなどのPRといった啓発活動も、必要であるという割合が高いようだ。

アンケート集計結果のまとめ

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会では、ごみの発生抑制を中心としたごみ減量の自主的な活動の推進やキャンペーンの実施、ちらしの配布によるPR活動などを行ってきた。

アンケートの結果、「最初からごみを出さないようにすること」である発生抑制よりも「資源をきちんと分別する」などリサイクルに対する意識は依然として強い傾向にある。

また、自ら行っている取り組みについては、複数回答をした方が少なかったことから全体としてパーセンテージが昨年よりも低くなっているが、「不要な包装は断る」は昨年を上回っており、不要な包装には高い意識を持っていることがうかがえる。その一方、マイバッグの利用については昨年の割合を下回っており、「ばら売りを選び必要なものだけ買う」の割合も減っている。

今後の取り組みに関しては、「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」といった各自の自主的な活動の推進を望む声は依然として高い状況である。また、「イベントやキャンペーンの実施」も高く、その他の意見の中では「小学校や幼稚園からの教育」といった意見も数多く見受けられ、啓発活動の充実が大切だと考える方が多いようだ。

ごみの減量には様々な手段でごみになるものを減らしていく必要がある。今後も「発生抑制」に重点をおきつつも、「再使用」「再生利用」も含めた全体でのごみ減量について意識啓発を図って行く。

さらに、「事業者による自主的な活動の促進」や「地域における自主的な活動の促進」を求める声が依然として高いことから、事業者の皆さんへの積極的なごみ減量・リサイクルの取り組みを意識啓発していくとともに、区民の皆さんにも、マイバッグの利用、不要な容器包装を断る行動、ごみと資源の分別の徹底、水切りの徹底など自主的な取り組みの促進を図って行く。

そして、区は様々な媒体を活用した呼びかけをするとともに、区民・事業者の活動が推進されるための様々な支援を行うなど、各方面への調整を行っていく。